

る繪具は大部分ニユートン製、一部はニ  
ユーマン、一部はラフエルにて、佛國製  
及和製は殆ど用ひぬニ 繪畫は長時間の  
現象を寫し出すものでなく、一時の感を  
現はし出すものなれば、主點を見た時の  
心持ちにて、繪を畫けば、決して距離が

同一になる事なし三 未定四 何事でも  
青年期を過ると進歩は遅けれどそれも勉  
強次第ならん七十の手習といふ例もあり  
青年のやうに目には立たぬとも幾分の進  
境は得べし、たゞ絶えず繼續するに限る  
一週間に一度七八時間勉強するよりも、  
毎日三十分間でも筆を取つた方が進歩が  
早い■一 水ワニスの使用法ニ 寫生機  
といへるものを用ひて作りし畫は、美術  
製作として價値ありや三 曾て太平洋畫  
會にて戲畫を陳列せしことあり、如何な  
る價値あるものによ、作品の威嚴を損せ  
ずや(藤の人)◎一 透明體の光澤を出す  
場合に用ひらるることありニ 寫畫機と  
いへど種々あり、輪廓のみ正しく取る事  
の出来るもの、紙面に先方の色が映り  
て、其上を塗てゆくものなどあり、何れ

も機械的にして寫眞と同様の價値あるの  
み三 價値問題でなく、所謂樂屋のイタ  
ヅラを公にした迄にて、威嚴を害すとい  
ふ程重く見るべきものではなかつた

### 讀者の領分

■來る七月の紀念號には水彩畫の募集で  
もなざる御計畫はありませんか、皆さん  
御願ひ申して見ませう 關西の山水は大  
いに大家先生達に不平を言つてゐる、少  
しは同情をかけてやつて下さい。石見の  
斷魚溪九州の耶馬溪其他勝地は多いと思  
ひます(藤朗)■淺虫温泉場は青森市を去  
る東方へ三里、風光頗る佳絶、春は汐干  
狩、夏は海水浴、湯上りの熱い顔を汐風  
に吹かせながら山の公園に上りてまさに  
沈まんとする海上の夕日を眺むるは大愉  
快、秋は紅葉、激浪を賞すべく、冬は岩  
上のオルトラマリン色の雪の曉も一興な  
るべし(青森未溟生)■諸君、吾が廣島市  
内に一つだに繪畫研究所のなきは慷慨の  
至りである、諸君一つ開設の方法を取つ  
ては如何(廣島市外横川神田周三)■四月

號の『みづゑ』を見ました、原色版木版石  
版一として悪いものはありません、圖按  
法は非常に僕に利益した、三脚物語は例  
の如く面白く感じました。最後に三平山  
人の言はあまり失敬ではないかと思ひま  
す、僕は斷言する五十九號のすべては決  
してまづくはない(京橋、太田曉天)■『み  
づゑ』石版のうち圖按畫は結構なれど水  
彩スケッチは申譯的のものばかりで不感  
服費用の點から立派なものが入れられな  
いとなら五十八號のやうな寫眞版になさ  
れたし又なるべく黒繪木版等一枚位ひは  
挿入されたし(吉成生)■前號の『みづゑ』  
三脚物語中にもあつたが、私等も始めは  
三本脚を開くのにはマゴついた一人、右の  
腕をやられるのは心細い、泥マミレの脚  
云々で、國の川邊にスケッチして居た時  
魚釣りの新マイが足を迂らして、側に居  
る人に引き上げて貰つたことを思ひ出し  
た、これは歡聲どころではないが(清平)  
■私の一番面白く思ふ三脚物語は飽かず  
に御掲載を乞ふ、石川先生の洒脫な御講  
義が出ないと物足らぬ、近來丸山先生は

如何いたしたのですかと奇抜な御論を拜聴したい、夫から古いことながら天下先生の『静物寫生の話』も中絶、戸張先生の構圖法もあれぎりでせうか(浪華浪客) ◎『静物寫生の話』は一段落になつてゐますが近日續稿の一作畫を講じます『構圖法』はいづれ出ます ■石見飯田君の廻覽畫帳の件大賛成、同好者の多少を論ぜず斯界の爲め早く實行したまへ ○『みづゑ』春鳥畫談は有益繪日記も僕には嬉しい (大阪東區南農人町二ノ五七夫隅直造) ■神戸の津川君、久住君、三重の駒田君、福島遠藤君、愛知の柴田君、三河の石川君、安房の白井君へ申す、吾人は敢て數の多きを望まず、少數にても熱心なる士を喜ぶ技術に於ても苦心の作を喜ぶ御賛成ならば左の規定によつて申込まれたし一、畫は寫生を尙び風景、靜物、人物等隨意一、畫面の大きはワットマン十六切大(發起者に於て注意して取扱ふべし)一、畫題を定むべきや否、これは追て一、メ切五月十五日(島根縣美濃郡都茂村飯田紫朗)

換をいたしたし拙なれど御返事は必ずいたします(信濃上田鍛冶町山浦多賀) ■『みづゑ』三十二より六十迄(但四十三、四十四を除く)汚れ目なきもの一冊十錢宛にて譲る、油繪携帶箱、三號畫架等と交換してもよろし(福岡縣遠賀郡香月村田代哲郎) ■圖書速寫法あり『みづゑ』三十二、三十三と交換を乞ふ、又は何れかの一部にてもよろし(新潟市船場町二丁目關孝平) ■中古のスケッチ箱相當の代價にて譲受たし(府下八王子大横六七平塚) ■市内の初歩の人で僕と自筆繪葉書を交換してくれる人はありませんか(東京趨町一番町四六、若山隆) ■ミレー油繪スケッチ箱(元價三圓)新物同様大減價壹圓にて譲りたし(茨城縣結城郡菅野村坂野伊三郎) ■『みづゑ』四月號を僕が出すから同四十六號と交換したし ○肉筆繪葉書交換希望必ず返葉(長野縣上田町原町三丁目關正造) ■諸君のうち御不用の『みづゑ』あらば安價に御譲り下さい、又は眞面目な自筆水彩と御交換を願ひます ○飯田君御發起の廻覽畫帳の件は賛成

(廣島市外横川神田周三) ■五月號へ御掲載を願ひし小生發起廻覽帖の件一先御撤回下され度候(飯田紫朗)

日本水彩畫會は本部を東京に置き、近來關西に長野横濱安中に飯山に其支部を設置し、斯道の普及を圖り、既に百十數名の會友を有するに當り、獨本縣に限り其創設を見ざるのみならず、會友の如きも本縣人は僅に兩三名を出すに過ぎず、之れ斯道の爲め慨嘆せざるべからざる事實なりとす、生儀茲に決する處あり、東京本部の許諾を経敢て同好の各位と共に、山水明媚にして自然の好モデルに富める當地に支部を創設し、高尚にして趣味ある斯技の向上を謀らんとす、苟彩筆に親しむの諸君は請ふ來り會して斯道の爲め大に盡身せられん事を。

追て未だ事務所の設備なきに付、入會希望の者は千葉縣北條町松田屋兄弟書房若しくは同町六軒町(飯田質店裏)白井保格宛申込を乞ふ

\* \* \*